**第２０回市民自治推進委員会　まちづくり部会議事録**

（敬称略）

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和２年９月４日（金）　１８時３０分～ |
| 開催場所 | 登別市役所　２階　第２委員会室 |
| 出席者 | （部 会 長）中原　義勝（副部会長）山口　賢治（部 会 員）山田　正幸、工藤　隆行（庁内委員）田中　道郎（庁内委員兼事務局）大越　智輝（事 務 局）佐々木　健 |
| 欠席者 | （部 会 員）稲葉　一彦、相沢　拓矢川島　雅司、渡部　雅子 |
| 議　　題 | （１）部会長、副部会長の選出について（２）令和２年度　まちづくり部会の取り組みについて（３）８月１９日開催　正副部会長会議の内容について |

議題（１）部会長、副部会長の選出について

●決定事項

　・部会長は中原義勝委員、副部会長は山口賢治委員に決定した。

議題（２）令和２年度　まちづくり部会の取り組みについて

●協議事項

**（町内会加入促進チラシについて）**

・前回まで作成に取り組んだ町内会の加入促進チラシは広報４月号に折込みした。

・今後の取組みとして事務局が作成した案

▼若い世代への加入促進活動

▼町内会活動を通したまちづくりへの参加促進

▼町内会（役員）やまちづくりを担う人材の育成

は、まちづくり部会の一つの課題ではあるが、コロナ禍においては実施が難しいと感じる。

　・市の環境対策グループでは、ごみ収集の件について、町内会未加入者への周知を補完するため、アパートの大家さんにお願いをして、アパートの住人に啓発チラシを配布する取組みを以前からしているので、町内会加入促進チラシもそれを利用することを予定している。

**（SDGｓの取組みについて）**

・SDGｓは途上国と先進国、中間の国とそれぞれに該当するものがあるので、全てを目標にするのは難しい部分はある。

・これからのまちづくりをSDGｓにくっつけて考えるどうかは別として、様々な問題を考える一つのきっかけにはなるかもしれない。

・福祉業界のある学者のはなしでは、登別市社会福祉協議会のきずな活動は、

SDGｓの最たる物だと言っている。

・SDGｓは今のままの社会では駄目だから、少しずつ変えていこうという発想の転換（ヒント）ではないか。

・SDGｓは持続可能なことを何のためにやっているかを伝えるための指針である。

・まちづくりの根本は一人も取り残すことなく、全てのひとに良いまちで過ごしてもらうということだと思う。

・SDGｓの取組みを、市民自治推進委員会の全部会で取組みとしてもよいと思う。

・SDGｓの取組み方法として３つパターンが考えられる。

①市民自治推進委員会の６部会がそれぞれのテーマに合った項目を取り組む方法

②目標１１（住み続けられるまちづくり）をクローズアップして取り組む方法

③全てのゴールに１つずつ取り組む方法（広く、浅く取り組む方法）

・そもそもSDGｓとは何なの？というところから取り組まなければならないのではないか？

・道内で国のSDGｓ未来都市選定都市に指定されている自治体がいくつかあって、そこの自治体の職員が講師をやっているという報道を見たことがあるので、そこに講師を依頼するのもよいと思うが、コロナ禍の状況では難しいかもしれない。

・SDGｓとして取り組んだ事業の結果を検証し、何らかの効果があればやりがいがある。

・SDGｓの取組みは「大事だ」と言うだけで終わらず、効果の検証をしていくのが市民自治推進委員会の役割だと思う。

・まずは我々がSDGｓに対する理解を深め、それから、まちづくり部会として何ができるかを検討する必要がある。

●決定事項

・まちづくり部会の部会員がＳＤＧｓに対する理解、知識を深める。

・そのうえで、まちづくり部会として何ができるかを検討する。

議題（３）８月１９日開催　正副部会長会議の内容について

●報告事項

**（１）登別市総合計画第３期基本計画について**

市民自治推進委員会は、第３期基本計画の方向性を踏まえ、計画に謳われている各章の内容について各部会で議論し、市民と行政の役割分担のもと、共にまちづくりに取り組んでいる。今年度の市民自治推進委員会でも、これまで同様に第３期基本計画の方向性を踏まえ活動することを確認した。

また、今後の進め方について話し合う上での前提として、平成２８年度に市民自治推進委員会が立ち上がる際にも話が出たとおり、市民自治推進委員会は市に対するご意見番や市に対して物申す場所ではなくて、行政の取り組みで足りない部分を市民の力で何とかしようという組織となっている。

各部会においては、数名の部会員で何かをしようとしても限界があるので、部会員の所属団体等の力も借りながら自分たちでできることを探ることとしている。

過去には市民自治推進委員会で市職員を呼んで市の事務事業の批評に終始し委員会本来の取り組みが進展しなかったため活動が下火になったという経緯があった。今度はそうならないよう、自分たちでできることを探るのが望ましい。

**（２）登別市の財政状況の把握とそれを踏まえたまちづくりへの取り組みについて**

市民自治推進委員会で議論を進めるにあたり、委員が市の財政状況の現状や今後の見通しについて把握する必要があることから、市の財政担当者より説明を受けることとなった。１１月頃の実施を予定している。

**（３）新型コロナウイルス感染症について**

市民の立場からも「新北海道スタイル」の浸透を図ることで、安心して暮らすことのできるまちづくりに取り組むため、各部会において、部会員から所属団体における感染防止対策を発表し合いながら、さらなる取り組みが必要と思われるものがあればそれを協議し、市民自治推進委員と委員を推薦いただいている各種団体に「新北海道スタイル」の浸透を図る。また、誰もが感染する可能性があることを再認識し、市民一人一人が感染者に対する偏見や差別につながるような行動をしないよう、市民自治推進委員の推薦団体を通し周知啓発する。

●意見

新型コロナウイルス感染症対策の取組み

・新型コロナウイルス感染症によって、人と人の距離を取ったりこれまで支え合う社会のためにやってきたことを、やらないことが一番の感染症対策とされている。

・新型コロナウイルス感染症対策をしながら共生する社会をつくるにはどうしたらよいかわからない。簡単には答えはでないと思う。

・商工会議所青年部では、コロナ禍における会合を自粛してはとの意見が出たが、活動を休止した場合、仲間同士の心が離れる、こういうときこそコミュニケーションをとる必要があるとのことで活動を継続したところ、以前よりも会員数が増えた。

・新型コロナウイルス感染症に対して変に恐れすぎず、滞りなくしなければいけない公的サービス等は、専門家からも情報をもらってマニュアル等を作成することも大切だと思う。

その他

●関係資料の配付

・市企画調整グループにおいて行った、「第１期　登別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の検証結果の資料をお配りしている。

・市都市政策グループで行っている、登別市都市計画マスタープランの改訂委員会の第１回の会議が８月４日にあり、その時の議事録と資料をお配りしている。

●ぬくもり部会の取組みについて

・ぬくもり部会では、今年度、児童虐待の防止に向けた取組みを行っており、８月２６日の部会で、こども家庭グループの職員を講師に３０分程度のセミナーを実施した。

・今後、ぬくもり部会員の推薦団体へも、セミナーの開催を依頼をする予定であるが、部会長から、市民自治推進委員会全体の取組みとして実施したい旨の話があったため、次回の正副部会長会議で提案していただく予定となっている。

次回の部会の開催日程

●事務局にて開催日程を調整することとなった。